

学ぶ育む



新聞読んで学生に質問力

「授業で積極的に発言を」立教大と本紙が講座

新聞を使って質問する力を身につける講座「新聞でQ」が先月、東京都豊島区の立教大学で開かれた。

講座は、授業で質問する学生が少ない現状を踏まえ、疑問を積極的に出す習慣をつけてもらおうと、立教大と読売新聞が企画。インターネット接続会社「インターネットインシアティブ」会長の鈴木幸一さん(70)が講師



ホワイトボードに質問を書き出す学生たち(立教大) 秋山哲也撮影

を務め、約60人の学生が参加した。

学生たちは、時間外労働に関する読売新聞の社説など、「働く」ことをテーマにした記事6本を事前に読んで講座に臨んだ。5、6人のグループに分かれ、記事を読んで知りたいと思っただけを互いに書き出し、発表し合った。

「どうして過労死するまで働くの」「残業とは何」「日本はなぜ残業大国といわれるのか」……。社会学部2年の深井吾朗さん(19)は、「身近な話題について書かれた記事をじっくり読んで書かなくていいのが良かったら、質問したいことが次々に浮かんできた」と話した。

鈴木会長は、「情報を受け入れるだけでなく、疑問を持つと世の中が面白くなる」などと強調。主体的に質問する大切さを実感した学生たちを見て、進行役を務めた佐々木宏・立教大教授は、学生の思考力が広がった」と手応えを感じた様子だった。

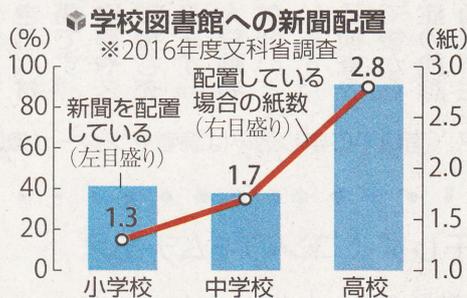
都立の全学校に新聞6紙

「18歳選挙権」対応 政治や社会を考える素材に

東京都立の全学校の図書館に今年度から新聞6紙が置かれるようになった。「18歳選挙権」に対応し、現実の政治や社会の課題を考える主権者教育に役立てるため、社説の比較など多様な言論を取り上げることで学校の政治的中立性を確保する狙いもある。

都教委によると、対象は都立高校186校に加え、中学校、中等教育学校、特別支援学校の計約250校。都立高にはこれまで2、3紙を置いていたが、今年度から都立校全体に都独自で6紙分を予算措置した。朝日、産経、毎日、読売、日経、東京の各紙を原則としている。

文部科学省は学校図書館



趣旨について都教委の担

当者は「現実の具体的な政治課題を取り上げ、議論を深めてほしい。社会的な対立のある問題は、多様な考え方を示すことが大事で、そのための6紙配置でもある」と話す。具体例としては、夫婦同姓を巡る最高裁判決に関する各紙の社説を比較し、討論する授業などをあげている。

全国学校図書館協議会の担当者は「6紙置くというのは聞いたことがない。蔵書と組み合わせる様々な授業展開が可能になるだろう」と話す。都立高で公民を担当する男性教諭は「各紙が1面で取り上げるような事案で論調の違いを考えるとといった使い方は有効だ」と思う。ただ、安全保障やエネルギー問題などを扱う時に必ず6紙を比較するのは時間的に難しく、工夫が必要だ」と話している。